

旧山本猪平家

建物由来 : この建物は、飢肥の豪商であった山本猪平が明治40年（1907）頃に建築した商家の本宅である。

敷地面積約 1,100 m²の中に、主屋、離れ屋、台所、浴室、便所等がほぼ建築当初のまま残されており、飢肥本町の商人本宅を現代に伝える遺構として貴重である。

屋敷地は大手門通りに面して高い塀と門を構えている。門の両側は部屋と収納庫となっており、主屋と奥座敷、離れ、台所、浴室、便所とが二つの庭を囲むように有機的につながり、当時の町家の配置計画をよく示している。

このうち主屋は入口に格子戸を設けて、数寄屋風の天井を持つ通り土間を通過して玄関に至る。通り土間の両側には収納庫を設けている。

主屋は座敷の10畳に次の間の10畳が並び、その奥が居住の場となっている。奥座敷は、昭和2年（1927）に山本猪平が隠居したのに伴い、昭和4年（1929）に増築された。本来奥座敷便所の東隣は隠居の出入口になっていたとみられる。

また、屋敷地内の通路や床下土間に陶磁器のタイルを使用しており、当時の流行の一端を知ることができる。

なお、この屋敷地の南半分はもともと町役人であった小村寿太郎の父親である小村寛の屋敷地であった。小村寛が飢肥商社事件で没落したために、山本猪平が買収してこの建物を建てた。山本家には、この建物は小村寿太郎が飢肥に帰ってきた時のために建てたという言い伝えが残されている。

この建物は昭和52年（1977）の伝統的建造物群保存地区の選定時に保存物件として指定していたが、平成9年（1997）に空き家となったため、市で公有化して修理した。修理に際しては建築当初に戻すことを原則としたが、一部耐震強度の確保のため、壁を新設している。

所在地 : 飢肥五丁目 4089 番地イ

建築年度 : 明治40年頃

文化財指定等 : 市指定文化財・伝統的建造物群保存地区保存物件

敷地面積 : 1,087.27 m²

延べ床面積 : 407.77 m²

駐車場 : なし

改修条件 : 別紙ガイドライン参照

その他不明な点は市教育委員会生涯学習課文化財係と協議すること。

年額貸付料 : 約 84 万円 / 年 (土地・建物)

※ 参考のため、概算であり、確定した金額ではありません。



旧山本猪平家全景



主屋全景



主屋内部



主屋座敷



主屋入り口通路



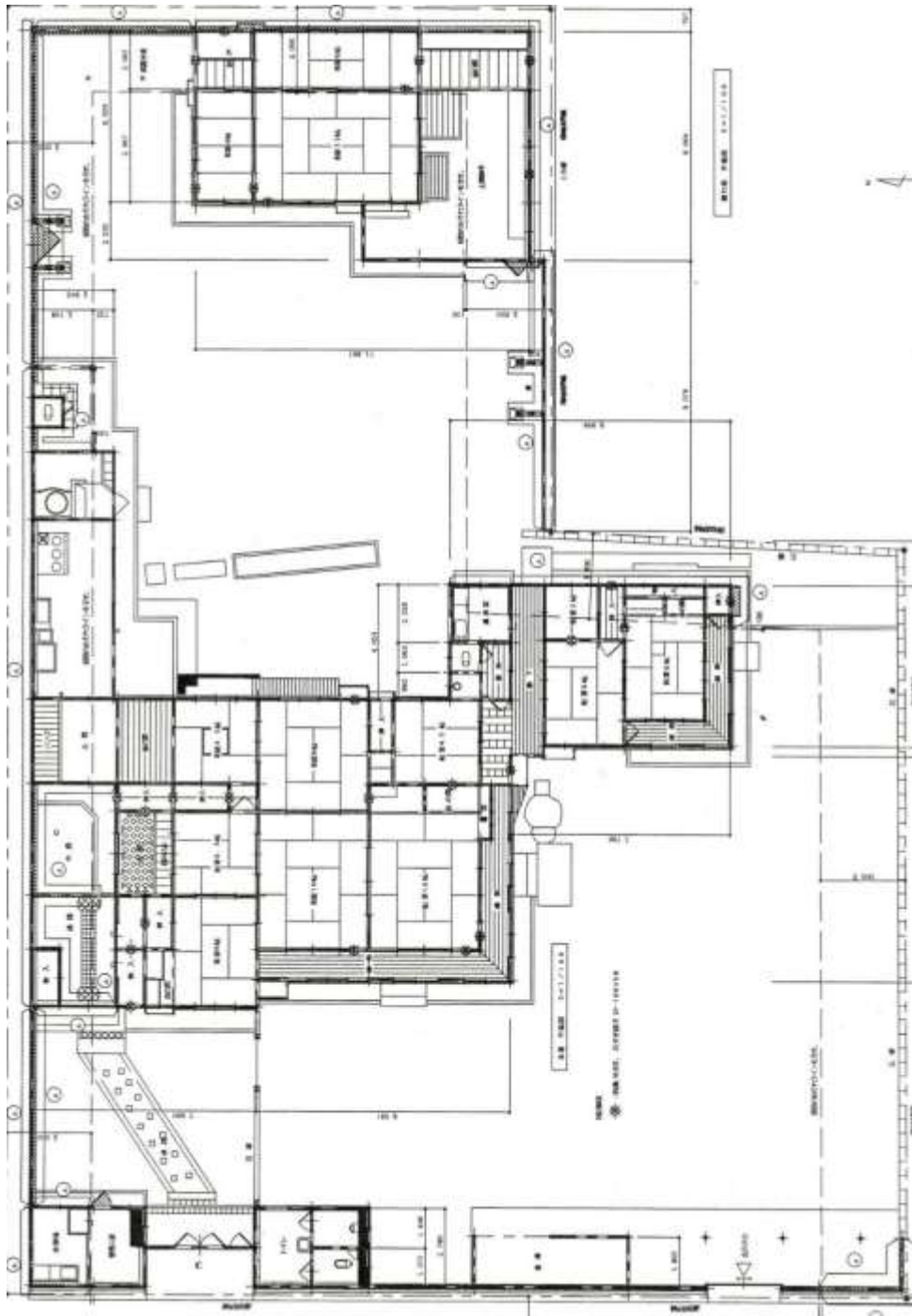
台所



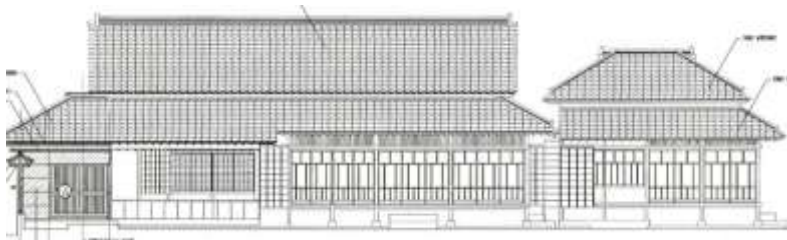
離れ全景



離れ内部



【旧山本猪平家平面图】



【旧山本猪平家立面图】

【位置図】

